九州海事広報協会会報
No.192
発行所
(公社)九州海事広報協会
北九州市若松区本町1-13-20
洞海港湾労働者福祉センター1階
電話 093-701-7897
FAX 093-701-7898
https://kaijikoho-kyushu.org/

新年を迎えて

公益社団法人 九州海事広報協会
会長　小笠原　朗

令和4年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年中は、会員の皆様方並びに九州運輸局、関係の皆様には格別のご理解とご支援ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと新型コロナウィルス感染拡大による緊急事態措置やオミクロン株の出現などコロナ禍の長期化、及び「令和3年8月の大雨」で甚大な被害に見舞われ、多難な年となりました。被災地の一日でも早い復旧を心からお祈りします。本年が新型コロナの終息と災害のない平和で明るい年でありますよう願っております。

さて、我が国は四面を「海」に囲まれており、当協会では「海」の恩恵やその役割・重要性について、青少年はもとより一般の国民に広く理解と関心を深めてもらうとともに次世代を担う子供たちに引き継ぐことを目的に、海事思想の普及・宣伝活動、国民の祝日「海の日」広報、海事知識の啓発など年間を通して展開をしております。

昨年開催した中学生海の絵画コンクールには例年の倍に及ぶ作品応募があり、門司港、鹿児島、佐世保で多くの方に観覧いただきました。海事産業施設の見学会につきましても、感染防止措置を行い、海事関係機関、産業界のご協力ご支援をいただき実施しました。

また、海・船に関するパネル展につきましてもコロナ対策を行い、管内の6モーターボートレース場で開催し、海事知識の普及を図るとともに地域の皆さんにボートレース事業への理解を深めていただきました。

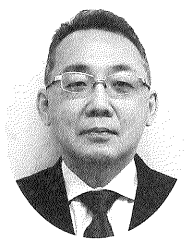
こうしたイベントを通じ、青少年が海を身近に感じ興味や関心を持ってもらうことにより、将来の海事産業への進路の選択肢を広げていただけたらと思います。

今後ともその任務・役割の達成に邁進していく所存でございますので、各会員の皆様並びに関係の皆様方のより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

新しい年を迎え海事産業の益々のご発展と皆様のご健勝ご多幸を祈念いたしまして年頭のご挨拶と致します。

年頭の辞

九州運輸局長
河原畑　徹



明けましておめでとうございます。

令和4年の年頭にあたり、謹んで御挨拶を申し上げます。

まず、昨年の「令和3年8月の前線等に伴う大雨」等により被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。九州においては毎年のように甚大な被害を及ぼす自然災害が発生していますが、これら被災地の復旧・復興に向けて、九州運輸局の職員一同、被災者の皆様に寄り添いながら、全力で取り組んでまいります。

また、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、人の移動が事業存立の前提である運輸業・観光産業は、外出の自粛や新しい生活様式の浸透により利用者が激減し、かつてない程に深刻な影響を受けています。加えて、昨秋からの急激な原油価格高騰も重なり、コロナで疲弊している運輸業・観光産業への更なる影響が懸念されています。九州運輸局としましては、今後も引き続き、九州の運輸・観光事業者の利用動向や経営状況を注視しながら、関係自治体とも連携して、事業継続、需要喚起や感染拡大防止に必要な支援・助言等を行ってまいります。

さて、新年を迎えまして、九州の運輸・観光行政に関する抱負を申し上げます。

（中略）

第一に、九州における観光の振興を推進してまいります。

第二に、持続可能な地域公共交通の実現を目指します。

第三に、人材確保と生産性の向上に積極的に取り組みます。

第四に、国民の皆様が安全・安心できる輸送環境の実現を目指します。

（第一～第四の項目については、九州海事広報協会ホームページで紹介しています。）

以上、4つの項目について、「運輸と観光で九州の元気を創ります」をキャッチフレーズに、職員一丸となり、取り組んでまいります。

昨年7月に就任以来、九州全県の各地域に足を運ばせていただき、各地方自治体の首長や運輸・観光事業者の方々の声を直接伺ってまいりました。こうした皆様方からの声を聞いたり、自分の目で見ることで、私自身も九州出身ですが、九州各地の魅力を改めて再発見したところです。

今後も積極的に九州各地を回り、事業者や地元の皆様と同じ目線に立って汗をかきながら、地域にとっての「最適解」を共に考えてまいります。

結びに、新型コロナウイルス感染症の一刻も早い収束、そして、九州の発展と皆様方の御健勝と御多幸をお祈りして、新年の御挨拶といたします。

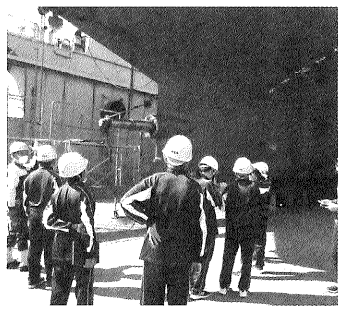
（文責：九州海事広報協会）

海洋キャリア教育セミナー「海の仕事へのパスポート」造船所見学会

10月19日（火）佐伯市立本匠中学校の生徒7人、校長先生、教諭は佐伯市の㈱三浦造船所を訪ね北海道オホーツク海で運航する流氷観光船「ガリンコ号Ⅲ IMERU」が完成するまでの話や船造りを学びました。

普段見たり聞いたり出来ない話や造船現場に「海の仕事」への関心をそそられ興味深く見学していました。

主催：（公財）日本海事広報協会
協力：（公社）九州海事広報協会
九州運輸局大分運輸支局

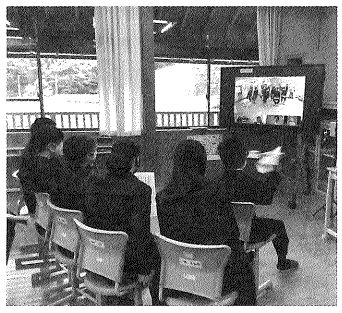


新造船の船底見学

オンライン交流会

北海道オホーツク海で活躍する流氷観光船「ガリンコ号Ⅲ IMERU」が佐伯市の㈱三浦造船所が建造されたのをきっかけとして、11月12日（金）佐伯市立本匠中学校2年生7人と北海道渚滑中学校2年生8人がオンライン交流会に参加しました。九州・佐伯と北海道・渚滑は直線距離でおよそ1600km離れていますが、両校生徒はガリンコ号や地元の産業・観光などについて発表し交流を深めました。

主催：（公財）日本海事広報協会
協力：（公社）九州海事広報協会
（公社）北海道海事広報協会



渚滑中とオンライン交流

船との出会い事業

海事施設見学会

☆ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

▼10月26日（火）佐世保市
・佐世保市立 花高小学校5年生102人、教諭5人
・佐世保重工業㈱の造船所見学、西海沿岸商船㈱の「れぴーどエクセル」に乗船し佐世保港内の体験クルージング
主催：九州運輸局長崎運輸支局佐世保海事事務所

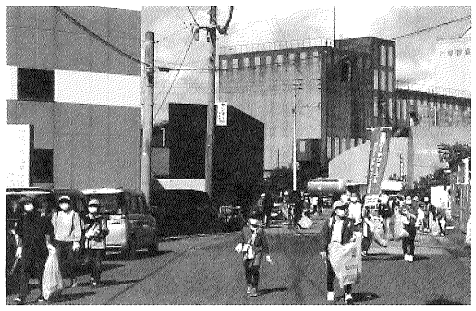
横断幕（船との出会い事業）

海事産業を見て聞いて学びました

ウォーターフロントクリーンマナーアップ作戦

10月17日（日）北九州市内の小学生と保護者60人は関門海峡ミュージアムから旧門司税関まで西海岸沿いの遊歩道などを清掃しました。また、門司港レトロ地区では訪れた皆さんに啓発グッズを配り「港を美しくしましょう」とマナーアップを呼びかけました。

主催：北九州海の日協賛会



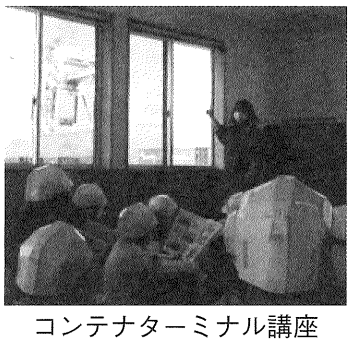
港を美しくしましょう

▼12月7日（火）八代市
・熊本県甲佐町立 白旗小学校5年生21人、教諭3人
・熊本ドック㈱、ヤマハ熊本プロダクツ㈱、八代港コンテナターミナルを見学
主催：九州運輸局熊本運輸支局（三角庁舎）

清掃活動

重さ3トンのアンカーに触れたよ

船外機見学

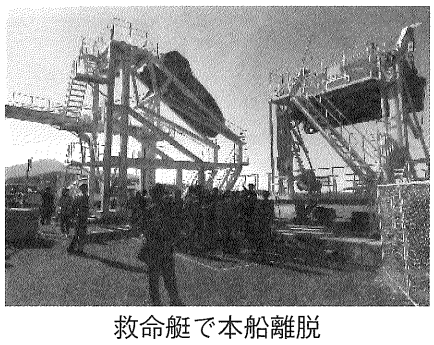


コンテナターミナル講座

▼12月10日（金）北九州市若松区、戸畑区
・北九州市立石峯中学校1年生50人、校長先生、教諭5人
・北九州市営の「第十八わかと丸」に乗船し洞海湾内の体験クルージング、ニッスイパイオニア館、日本サバイバルトレーニングセンター、北九州市エコタウンセンターを見学
共催：九州運輸局福岡運輸支局
若松海事事務所

洞海湾体験クルージング

船でどこへ運ぶのかな



救命艇で本船離脱

風力発電機はデッカイ